

# ザリガニ

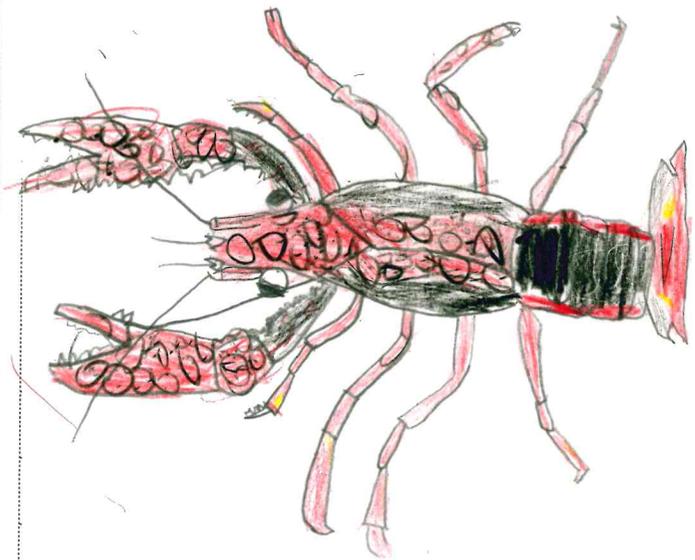
三次市立十日市小学校

第2学年 川本 倅生

ザリガニ

川本 こう生

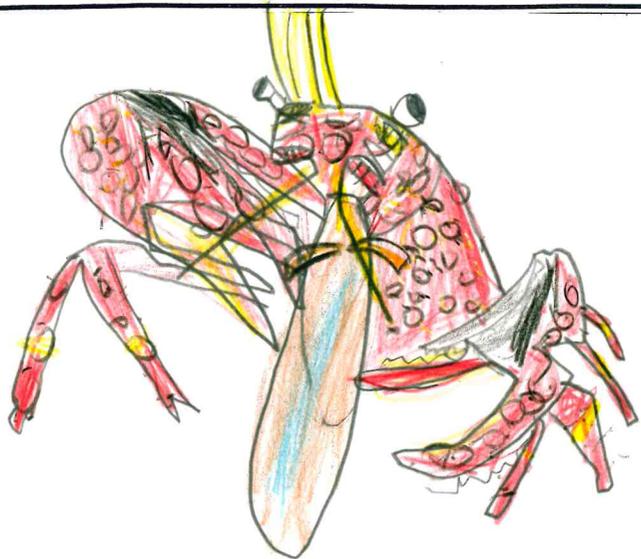
ぼくは、ザリガニがすきです。お兄ちゃん  
といっしょにつかまえて、かっただことがあり  
ます。そこで、ザリガニをくわしくかんさつ  
してみることにしました。



体の色はまっ赤の赤で  
はなくて、むらきき色に  
近い赤色でした。体の大  
きさは、九センチメートル  
—  
ルぐらいでした。体のつ  
くりは、あしが八本あっ  
て、はさみの左の先は、  
しかくのようになっ、てい

ました。右は、とてもんがっ、ていました。  
ザリガニの形はえびにいていて、とても大き  
くて、しりしりしていました。おどろかしそみ  
ると、うしろにすばやくとどろくところもえび  
にいていました。ひげがゆっ、くりうごいてい  
て、えさをさがしたり、においをかいだりす

るようになつて、いるんだなあと思ひました。



づいて、すがたを見るとき、口をこうこうとせ

ながらかんでいました。ヒラヒラのところは人間でいうと、「よーなんだと思ひました。

えさをたぐるときは、

えものを大きいはさみで

つかみます。そして、口

の方にえさをもつていき

ます。よく見ると、大き

なはさみから、前足にあ

る小さなはさみにもちか

えをたづていました。た

ほくは、ガリがニをさ

あたり、水さらいもの

を入れ、みたりしました

そうすると、ガリがニが

おこつて、大きなはさみ

を目いっぱい広げ、ば

くの方を見、きました。

はさみを広げると、しん

しこきそうご、とてもはく力がありました。



ザリガニの目をよくか  
んさつしてみると、ぶつ  
うのときは、くろい目の  
中に小さいま、くろな点

がありました。いつもはまっすぐむいてい  
けど、おこっているときは目が上にむいてい  
ることに気がつきました。ザリガニの目は、  
むきがかえられることが分かりました。

ぼくは、ザリガニのことをよくかんさつし

てみて、気づいたことがたくさんありました。  
でも、ザリガニには、ふしぎなことがまだま  
たあります。ザリガニは、だっぴちすると、体  
の色が白っぽくなります。なぜ、白っぽくな  
るのかふしぎです。また、今まで見てきた中  
には、赤色のこいものもあれば、むらさき色  
のこいものもいました。なにをたべさせたらそ  
んな体の色になるのかふしぎです。こんどザ  
リガニをつかまえてかたどきには、もむと  
いろいろしらべてみたいですよ。

## 指導者の言葉

本作品は、生活科「生きものなかよし大きくせん」でザリガニと触れ合った体験をもとに、国語科「かんさつ名人になろう」で書いた観察文です。

指導に当たっては、次の3点に留意しました。

ザリガニの様子（形・色・大きさ・動きなど）をよく観察すること  
見て感じたことを、自分の言葉で表現すること

「はじめ」「中」「おわり」の3部構成で書き、伝えたい事柄の順序を考えて書くこと

児童は、ザリガニを触ったり、えさをやったり、水槽から出してみたりするなど、ザリガニと触れ合う体験をしました。その触れ合いの中で多くの気づきが生まれ、体がゴツゴツしていることや、えさを食べる時にはさみを巧みに使っていることなど、細かいことにも気付くことができました。それらの気づきを「はじめ」「中」「おわり」の文章構成で書きました。「中」では、体全体を見た時、えさを食べている時のはさみの動き、怒った時の様子、怒った時の目の向きというように、観察の視点がより詳しくなっていくように順序を工夫して書き表しました。また、児童が観察した時の驚きや発見が読み手にも伝わるように比喻表現を効果的に取り入れ、ザリガニの様子を自分の言葉で豊かに表しています。

ザリガニを観察することを通して、多くの気づきが生まれ、さらにザリガニのことを知りたくなった児童の様子が目に浮かぶような作品となっています。